



2010/1/8

アド・イタリア・ニュース

編集・発行：アド・イタリア

politica

ポスト ベルルスコーニ

移民問題（治安・外国人選挙権）をめぐる意見の相違から、首相とフィーニ下院議長の間で亀裂が生じている。「国民同盟」の党首であったフィーニは、「自由の人民」に合流して与党の一翼を担ってきたが、今後は“追放”を恐れず独自路線を歩むと述べている。

一方、野党「キリスト教民主連合」のリーダー、カジーニは、ポスト・ベルルスコーニに照準を合わせ、「フロンテ・デモクラティコ（民主統一戦線）」を提唱。同じ野党の中道左派「民主党」やディ・ピエトロ率いる「価値あるイタリア」、最近結成されたルテッリの新党「API - Alleanza per l'Italia / 働き蜂」を含めた勢力統一を構想し、将来的にはフィーニの参加も視野に入れているという。

Frecciarossa 赤い矢



12月13日、トリノーミラノーサレルノ（1000km）を4時間30分で結ぶ高速鉄道が開通した。ミラノーローマは3時間半、フィレンツェーボローニャは37分（97kmのうち73kmはアペニン山脈の下を走るトンネル）。高速列車フレッチャロッサの料金は航空運賃とほとんど変わらない。

数十年来の夢がかなったとされるが、路線からはずれた都市、たとえば、テキスタイル産業の盛んなプラートや金細工の町アレツォの住民にとっては、本数の少ない在来線の利用やバスの乗り継ぎが必要となりそうだ。

Artigiani in fabbrica
工場の職人たち

昨年11月、フィレンツェ近郊の16世紀ルネッサンス様式の館で伝統工芸の実演販売会が開かれた。この催しは毎年会場と出展者を変えて行われ、3年目となる今回はフォロナーリ家農園内のヴィラで33種類の伝統技術（籠細工、陶器、手袋、レース編み、刺繍、建具など）が披露された。丘の小道を散策しながらやってきた人々には、音楽の演奏に耳を傾け、ルッフィーノ・ワインと特産品を味わう楽しい工芸祭となった。



società



“Men vs snow - Uomini contro neve”

シベリアの寒波がやってきた12月半ば、トリノは-13度、ボローニャは-10度、ヴィチエンツァ地方エネゴでは-29度を記録。北のアルト・アディジェ州からトスカナ州までが白い雪におおわれた。

写真：昨年2月、「雪国」となったリヴィエラの町サヴォーナの田舎。友人パオラのお父さんの動画より。

<http://www.youtube.com/user/fracc51> には、この威勢のよいイタリア式雪かき風景の他に、“La luna - The moon”、“Hiroshima remembrance”など、珠玉の40点が収められている。

豊かさの指標

世界的な経済危機を体験した資本主義社会は、豊かさはGDP（国内総生産）によって測れるものではなく、収入の増加と個人の幸せは必ずしも一致しないということに気付いた。

ある経済学者は、個人の幸福度は所得が増えることである程度までは上昇するが、その後は下降線を辿るとしている。

イタリアでも、76万人がこの不況のために職場を奪われ、全世帯の3分の1近くが月末には苦しいやりくりを強いられているなかで、価値観も変化し、伝統的な農業や手工業を見直そうとする積極的な動きが見られる。

人口100万人にみえないヒマラヤのブータンは、GDPではなく、調和のとれた持続可能な成長をめざし、文化と環境の保護に力をいれた独特の政策を打ち出してきたが、その努力が実り、今ではこの小さな国に世界中から観光客が訪れている。

世界の国々がGDPに替わる豊かさを模索し、スイスやドイツでは繁栄に欠かせない重要ポイントとして、まず環境面に注目している。オランダでは政策に反映させる8つの指標を新たに定めた：住居、健康、余暇、耐久消費財、スポーツ、ヴァカンス、社会参加、転勤／転職の可能性。アイルランドでは：人生への期待度、学歴、個人GDP、未開墾の土地、健康のための公的資金、失業率、有害物質の排出量。カナダは：所得、健康、経済安定度、社会福祉、消費購買力、住宅、人生への期待度、公共／民間医療サービスの質、政治／社会活動への市民の参加。

どの国もそれぞれの“成長”に向けて、新たな地平を切り拓こうとしているようだ。



economia

1ユーロ/134.75円 (1/7)

シエナの特産品は不況知らず

夏のパリオ祭で知られるトスカナの町シエナは、お菓子の町としても大変有名。小麦粉、蜂蜜、ナッツにスパイス、それにドライフルーツをぎゅっと押し固めて焼き上げた「パンフォルテ」や、アーモンドパウダー、松の実、蜂蜜、卵白を材料とした、外はさっくり、中はしっとりとした焼き菓子「リッチャレッリ」は、シエナの甘い特産品。



シエナの菓子業界の総売上高は4,000万ユーロ。この不況の中でも売上を維持し、小売価格も安定している貴重な地場産業である。特にクリスマスシーズンには季節雇用が増え、地元経済を潤す。主な輸出先はアメリカ、カナダ、中欧などだが、意外にも、暑い中近東のアラブ首長国連邦でも好まれる味なのだとか。

宇宙食もメイド・イン・イタリアー

国際宇宙ステーションでの長期ミッションを無事成功させた若田光一飛行士。

若田飛行士と宇宙での生活を共にしたロシア人司令官ゲナディ・パダルカは、イタリアでの講演会で、宇宙での食生活を披露した。「宇宙食」はかきりなく地上食に近づいている。ロシア料理もあれば、寿司もある。それに、あのえもいわれぬバルミジャーノもね（実際、船内での昼食の様子を撮影した写真にもバルミジャーノが写っている）。

1日の摂取カロリーは2,500キロカロリー、水は2.5リットルなど、宇宙での健康管理の基準値が細かく定められる中、無重力状態での生活で最も懸念されるのがカルシウム不足。それを補う絶好の食品として注目されているのが、バルミジャーノ・レッチャーノなのである。メイド・イン・イタリアーを代表するチーズは、宇宙においてもとびきりの健康食品という折り紙が付けられている。

Coin と Upim が婚約発表

イタリア最大手の量販店チェーン、Coin と Upim が合併の契約書に調印したことが発表された。これによって、イタリア国内外合わせて700を越す店舗を擁する巨大小売グループが誕生することになる。

Coin はすでに2008年、傘下のアパレル小売チェーンOviessieを通じて同じアパレルチェーンのMelaBluを買収している。

1920年代に創業したUpimは、60年代末にRinascenteグループと共にフィアットのアニエッリ家に買収された。90年代にはフランスの大手スーパーAuchanグループに売却され、さらに2005年5月にはInvestitori Associati、Pirelli Real Estate、ドイツ銀行など複数の機関が株式を取得し、経営を転々とさせてきた経緯がある。